



令和8年度 京都市立第三錦林小学校 研究発表会

# 主体的に考え、対話を通して 自らを高められる子どもの育成

～適切な見取りの上に成り立つ

学ぶ必然性を感じられる授業と緻密な手立ての追究～



令和9年1月29日（金）

## 初年度 「テーマ性のある学び」

自身の経験をもとに相手に伝えようとする姿がみられた。

## 2 年目 「学ぶ必然性の実感」

「児童が主体的に学ぼうとする姿」「児童同士でともに学び合おうとする姿」が徐々にみられるように。

## 3 年目 「思考を支える基盤づくり」

対話の意義を理解し、友達と対話する中で思考を広げたり深めたりできる児童が増えてきた。

## 4 年目 「個に応じた指導」

学習が苦手な児童も、教材や題材の工夫により主体的に学習に取り組めるように。

## 5 年目 「協働的な学び」

対話の必要性を実感し、主体的に対話し、自分の考えを形成している姿が見られた。

## 6 年目 「対話を通して自らを高める」

意図をもって対話相手を選んだり、学習の進め方を自分で判断したりする姿がみられるように。

## 7 年目 「適切な見取り」

今年はどんな変容が見られるでしょうか・・・。

## 研究主題について

「主体的に考え」とは課題解決のために「子ども自らが1時間1時間の学習のめあてを考えたり、単元の進め方を考えたり、対話相手などを考えたりする姿」、「子ども自らが必要な情報を判断したり、情報を精査して考えを形成したり、選んだ方法で表現したりする姿」とする。「対話を通して自らを高められる子ども」とは「自己や他者、書き手や話し手等との対話を通して、「今」の自分からより「高み」を目指している姿とする。そのような子どもを育成するために、まずは「子ども達の適切な見取り」が必要だと考える。「目の前の子ども達に付いている力はどんな力なのか。課題は何か。」「ここで付けたい力はどんな力か」を見極めることが重要になる。その上で、「学ぶ必然性を感じられる授業」と「緻密な手立て」を追究していく。

研究主任 北村 葵



### 講演 水戸部 修治 先生

(京都女子大学発達教育学部 国語科教育学 教授  
小学校教諭、県教育庁指導主事、山形大学地域教育文化学部准教授等を経て、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター総括研究官・教育課程調査官・学力調査官を歴任。平成29年4月より現職。)

|       |               |              |       |       |       |              |       |            |
|-------|---------------|--------------|-------|-------|-------|--------------|-------|------------|
| 13:30 | 13:50         | 14:05        | 14:15 | 15:00 | 15:10 | 15:50        | 16:00 | 17:00      |
| 受付    | 全体会①<br>学校長挨拶 | 基調提案<br>校長挨拶 | 移動    | 公開授業  | 移動・休憩 | 分科会<br>研究協議会 | 移動    | 講演<br>全体会② |



### 公開学年

育成

1 年

4 年

6 年



### お申し込みについて

- 教育関係者を対象としています。
- 右のQRコード、または下記URLよりお申し込みください。

<https://forms.cloud.microsoft/r/ldjJkQxwr5>



- 申込期間：令和9年1月20日（水）まで
- 参加費：一般 500円（資料代込み・当日現金払い）  
※京都市内からの参加者は不要です。

### ■お問い合わせ

京都市立第三錦林小学校

〒606-8424 京都府京都市左京区鹿ヶ谷宮ノ前町9

Tel:075-771-4844 Fax:075-771-0923 担当 北波 岳史

# 7年目の成果をご覧ください。